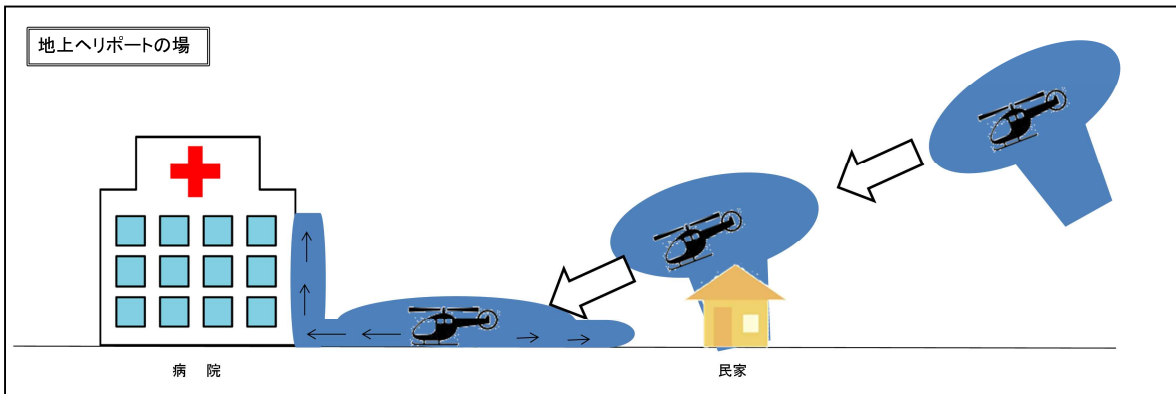


1 病院ヘリポート（「病院ヘリポートの作り方（エアロファシリティ（株）」参照）

ヘリコプターは「直下騒音」と「周辺騒音」を発生しながら飛行している。ヘリコプターが高いところを飛んでいる間は、地上に不快騒音は届かない。

(1) 地上ヘリポートの場合

地上ヘリポートでは、エンジン音が地上に叩きつけられ、ヘリコプターの離発着時の継続騒音（周辺騒音）が最低でも3分程度は継続騒音を発生することとなる。

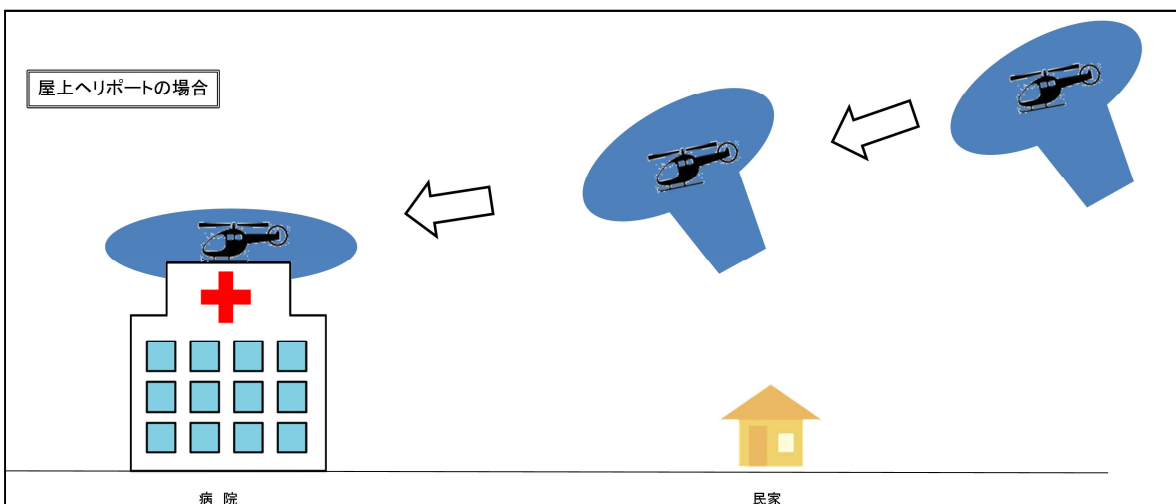


(2) 屋上ヘリポートの場合

屋上ヘリポートは高い場所にあり、地上からの距離が遠くなるため、騒音対策の点で有利となる。

建物が高ければ高いほど、近隣への騒音は小さくなる。また、音は直進性が強いため、ヘリポート床や屋上床で遮られた病室への影響は、さほど大きくはならない。

屋上ヘリポートは、飛行中の騒音も離着陸時の騒音も病院内や近隣へ及ぼす影響が小さくなる。



2 新病院におけるヘリポート整備（委員会意見案）

- (1) 周辺の騒音対策、敷地面積の有効活用の観点から、新病院においては、ヘリポートは屋上設置を検討することが望ましい。
- (2) 併せて、着陸帯の建物側に吸音パネル（防音壁）を整備する等、対策を取ることが必要である。
- (3) 新病院におけるドクターヘリの駐機方法は、基地病院である県立加古川医療センターと協議の上、決定する必要がある。
- (4) 新病院のドクターヘリに係る諸条件（施設の高さ、利用頻度、駐機方法、詳細な進入方向）を踏まえて、地元姫路市と協力の上、住民説明等を丁寧に実施する必要がある。